１－３　米粉用国内産米の流通量

⑴　令和７年度米粉用国内産米の需要量

製粉事業者等からの聞取りによれば、令和７年産においては原料となる米粉用国内産米の生産量が減少したことにより、一部の製粉事業者では、受注抑制を行う動きが見られるものの、米粉の需要は堅調に推移しており、米粉用国内産米の令和７年度需要量は、6.0万トンと見込まれます（表２）。

⑵　米粉用国内産米の供給量

令和７年産の米粉用米の生産量は、主食用米の作付増加も進んだこと等により、1.9万トンに減少する見込みです。

こうした国産原料米の不足に対応するため、令和７年度には、政府備蓄米の加工原材料用販売において、米粉用として、1.8万トンを販売。この他、国産米のふるい下米等から約1.0万トン供給されるものと見込まれており、米粉用国内産米の令和７年度供給量は全体で4.7万トンとなる見込みです。

令和８年産については、製粉事業者等における前年度繰越在庫量及び調達見込等を踏まえ、4.7万トンと見通します（表３）。

⑶　令和８年度米粉用国内産米の需要量

令和８年度の米粉用国内産米の需要量（流通量）については、製粉事業者等からの聞取りを踏まえ、6.0万トンと見通します（表３）。

表２　米粉用国内産米の需要量の推移

（単位：万トン）

年度	需要量	対前年度比
令和３	4.1	114%
令和４	4.5	110%
令和５	5.3	118%
令和６	5.6	106%
令和７見込み	6.0	107%

表３　米粉用国内産米の流通量見通し

（単位：万トン）

年　　度	前年度繰越在庫量 ①	需要量 ②	供給量 ③	翌年度繰越在庫量 ④＝①－②＋③
令和７見込み	5.0	6.0	4.7	3.7
令和８見通し	3.7	6.0	4.7	2.4
８年度流通量見通し				→6.0

注：１）需要量は実需者（米粉製粉企業等（カバー率90%）(以下この頁同じ)）からの聞き取り数量をもとに作成。

２）供給量は、令和７年度は新規需要米取組計画認定数量（1.9万トン）に、政府備蓄米販売において新規需要米（米粉用米）として購入申込のあった数量（1.8万トン）、国産米のふるい下米等の供給見込数量（約１万トン）を加えた数値。令和８年度は需要量及び翌年度繰越在庫量の水準をベースに必要供給量として推計。

３）在庫量は実需者からの聞取り数量をベースに推計。

１－４　外国産食糧用小麦の需要量

令和８年度の外国産食糧用小麦の需要量については、同年度の食糧用小麦の総需要量560万トンから国内産食糧用小麦流通量93万トン及び米粉用国内産米流通量６万トンを差し引いて461万トンと見通します（表４）。

１－５　外国産食糧用小麦の備蓄目標数量

現在、不測の事態に備え、国全体として外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分の備蓄を行っています。

このため、令和８年度の備蓄目標は、外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分相当である88万トンとします（表４）。

なお、民間の実需者が2.3か月分を備蓄する場合、そのうち1.8か月分について、国が保管料を助成します。

１－６　外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）

令和８年度の外国産食糧用小麦の輸入量は、外国産食糧用小麦の需要量に備蓄数量の増減分を加えた462万トンと見通します（表４）。

なお、飼料用小麦の輸入については、別途、農林水産大臣が定める飼料需給計画に基づき行います。

表４　令和８年度の食糧用小麦の需給に関する見通し

（単位：万トン）

総需要量		A	560
国内産	国内産食糧用小麦の流通量	B	93
国内産	米粉用国内産米の流通量	C	6
外国産食糧用小麦の需要量		D＝A－(B＋C)	461
外国産食糧用小麦の備蓄数量			
	７年度（見込み）	a	87
	８年度（目標）	b	88
	増減	E＝b－a	2
外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）		F＝D＋E	462

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。